

授業科目名	言語聴覚障害特論 I	授業形態	講義	配当学期	3年（前期）
担当教員名	上村朋久、仲山晃生、島本裕士、春芳準朗	単位数	2単位	時間数	60時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕 基礎専門分野、専門分野について集中講義を実施する。あくまでも各個人が不得意科目について随時学習を進めること。</p> <p>〔学習目標〕 基礎分野、専門分野の科目を重要度に応じて理解を深める。</p>				
授業回数	授業内容				
第 1 回	失語①：定義、原因疾患と病巣、言語症状、古典的失語症候群とその他の失語症候群 について学ぶ。				
第 2 回	失語②：評価法、関連情報の収集、失語症の経過および予後について学ぶ。				
第 3 回	失語③：言語訓練の理論と技法、各期の訓練援助方法について学ぶ。				
第 4 回	ディサースリア①：発話の神経生理と運動障害性構音障害のタイプについて。				
第 5 回	ディサースリア②：運動障害性構音障害の評価、発声発語器官の運動評価について。				
第 6 回	ディサースリア③：介入の原則、各種アプローチ方法、高次脳機能障害への対応について。				
第 7 回	機能性構音障害：機能性構音障害にみられる音の誤り、評価・診断、構音訓練について学ぶ。				
第 8 回	臨床心理学①：性格（類型論と特性論）、異常心理の諸相、パーソナリティ障害、異常心理の原因、欲求不満・防衛機制・ストレス対処行動について				
第 9 回	臨床心理学②：発達各気における心理臨床的問題、心理学的アセスメント、各種心理療法について学ぶ。				
第 10 回	心理測定法①：精神物理学的測定法、尺度構成法について。				
第 11 回	心理測定法②：標準化・信頼性と妥当性、調査法について。				
第 12 回	音響学①：音波の性質、波長・周期・周波数・音速、音圧レベルと音の大きさのレベルについて。				
第 13 回	音響学②：時間波形と周波数スペクトル、音響管の共鳴、音声生成の音響理論について学ぶ。				
第 14 回	音響学③：音声の信号処理、音声の音響分析について。				
第 15 回	成人聴覚障害①：伝音難聴と感音難聴、先天性難聴と後天性難聴、ライフステージによる違いについて。				
第 16 回	成人聴覚障害②：成人聴覚障害の評価方法と各種訓練について学ぶ。				
第 17 回	成人聴覚障害③：聴覚障害をサポートする各種機器、関連団体、視覚聴覚二重障害について。				
第 18 回	高次脳機能障害①：高次脳機能障害とは、背景症状について。				
第 19 回	高次脳機能障害②：失行シリーズ、失認シリーズ、視空間障害、記憶障害について。				
第 20 回	高次脳機能障害③：注意障害、遂行機能障害、半球離断症候群、認知症について学ぶ。				
第 21 回	精神医学①：精神疾患の分類、正常と異常、内因性疾患について学ぶ。				
第 22 回	精神医学②：心因性疾患、器質性疾患、各年齢期の障害の特徴、精神保健について。				

授業科目名	言語聴覚障害特論 I	授業形態	講義	配当学期	3年（前期）
担当教員名	上村朋久、仲山晃生、島本裕士、春芳準朗	単位数	2単位	時間数	60時間
第 23 回	聴覚系の構造機能①：聴器の構造と機能について学ぶ。				
第 24 回	聴覚系の構造機能②：伝音性難聴、詐聴について。				
第 25 回	言語発達：言語発達障害の病態、評価、指導・訓練について学ぶ。				
第 26 回	聴覚心理学：音の心理物理学、聴覚の周波数分析とマスキング現象、両耳の聞こえ、環境と聴覚について。				
第 27 回	学習認知心理学：感覚、知覚・認知、学習、記憶、思考、言語について。				
第 28 回	吃音①：定義と鑑別診断、発症メカニズムと理論的背景、症状の特徴と進展について。				
第 29 回	吃音②：評価、指導・訓練方法について。				
第 30 回	内科学：循環器・呼吸器・アレルギー・免疫・血液・消化器・腎臓・内分泌・代謝・感染症・老年医学の各疾患について。				
評価方法	基礎専門、専門科目200問について国家試験に準じた形式の試験を前後期合わせて計2回実施。その平均点が120点以上または125点以上で合格とする。 ※統一試験が実施された時は計3回の平均120点以上または125点以上を合格とする。				
教科書 参考図書	〔教科書〕 国家試験過去問題集、言語聴覚士テキストなど。				
	〔参考図書〕 国家試験過去問題集、言語聴覚士テキストなど。				
履修上の 留意点					
メッセージ	一朝一夕で点数が向上することはありません。 不断の努力で最後まであきらめないこと。				